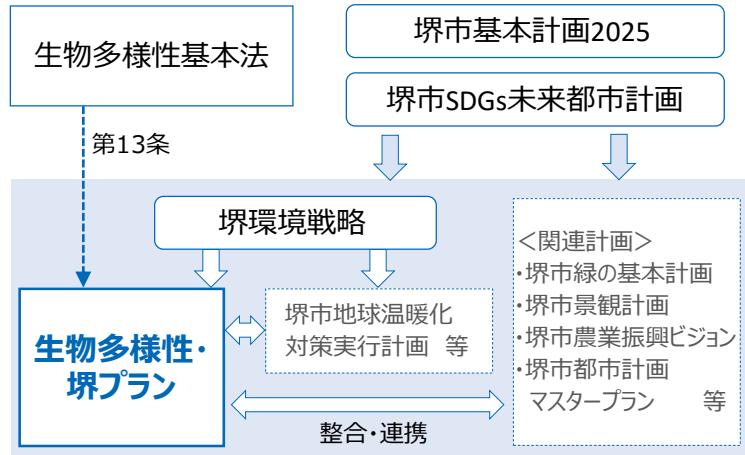


第1章 生物多様性・堺プランとは

1. 本プランの趣旨

本市では、2013年3月に「生物多様性・堺戦略」を策定し、施策や取組を進めてきた。2022年度に同戦略の計画期間が終了するにあたり、同戦略策定後の取組や国内外の動向等、本市の生物多様性をとりまく状況の変化を広く捉え、「生物多様性・堺プラン」を策定。

2. 位置づけ



3. 対象区域

堺市全域

4. 計画期間

2023年度から2030年度まで
※必要に応じプランの見直しを行う

5. 生物多様性とは

- 生物多様性とは生き物たちの豊かな個性とつながり
- 生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性という3つのレベルでの多様性がある
- 生物多様性は、4つの危機（開発等による危機、自然への働きかけの縮小による危機、外来種等による危機、気候変動による危機）に直面している
- 生態系がもたらす恵みを生態系サービスと呼ぶ

6. 生物多様性に係る国内外の動向

近年、生物多様性に関する関心が国内外で高まっている。本市の生物多様性に関する取組を進めるにあたり、国内外の動向を踏まえる。

第3章 基本理念及び目標等

1. 基本理念

自然と共生する堺をめざして

市民が将来にわたり豊かな暮らしを営むためには、生物多様性の保全や自然資源の持続可能な利用を推進し、自然と共生できる社会を形成することが重要である。

2. 2050年ビジョン（将来像）

森・里・川・海のつながりが確保された生態系の恵み豊かな都市・堺を実現する

本市の生物多様性の特徴は、「森」「里」「川」「海」が現在にも残っていることである。この堺らしい生態系のつながりを確保し、その豊かな恵みを楽しむ都市・堺を実現することをめざす。

3. 2030年ミッション（目標）

自然との共生に向けて ネイチャーポジティブを実現する

生物多様性は損失し続けており、この損失傾向を止め回復軌道に転じさせることが必要であり、生物多様性損失の直接的な要因を対象とした対策に加え、生物多様性に配慮した社会へ変革していくことが重要である。

このことから、本市では2030年までに、生物多様性の損失傾向から回復軌道に乗せることをめざし、「自然との共生に向けてネイチャーポジティブを実現する」を2030年ミッション（目標）とする。

※ネイチャーポジティブ：生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せること

4. 本プランと特に関連するSDGs

本プランを推進することで、特に、持続可能な開発目標（SDGs）のゴール4、11、12、13、14、15、17の達成に貢献する。



第2章 堺市の生物多様性

1. 堺市の生物多様性の特徴

（1）堺らしい自然環境

- 市内には様々な陸域や水域の生態系がある
- 5,990種の野生生物が確認されている
- 大都市でありながら、生物多様性が豊かな都市である

（2）堺市のこれまでの主な取組及び近年の動向

- 生物多様性ウェブサイト「堺いきもの情報館」を開設し、生物多様性情報の収集・発信を実施している
- 市民協力によるモニタリング調査や学校等との連携による環境教育などを実施している
- 野生生物目録、堺市レッドリスト、堺市外来種アラートリストが作成されており、生物情報が整理されている
- 「SDGs未来都市」、「脱炭素先行地域」に選定されるなど、様々な取組を進めている

（3）堺市の生物多様性の課題

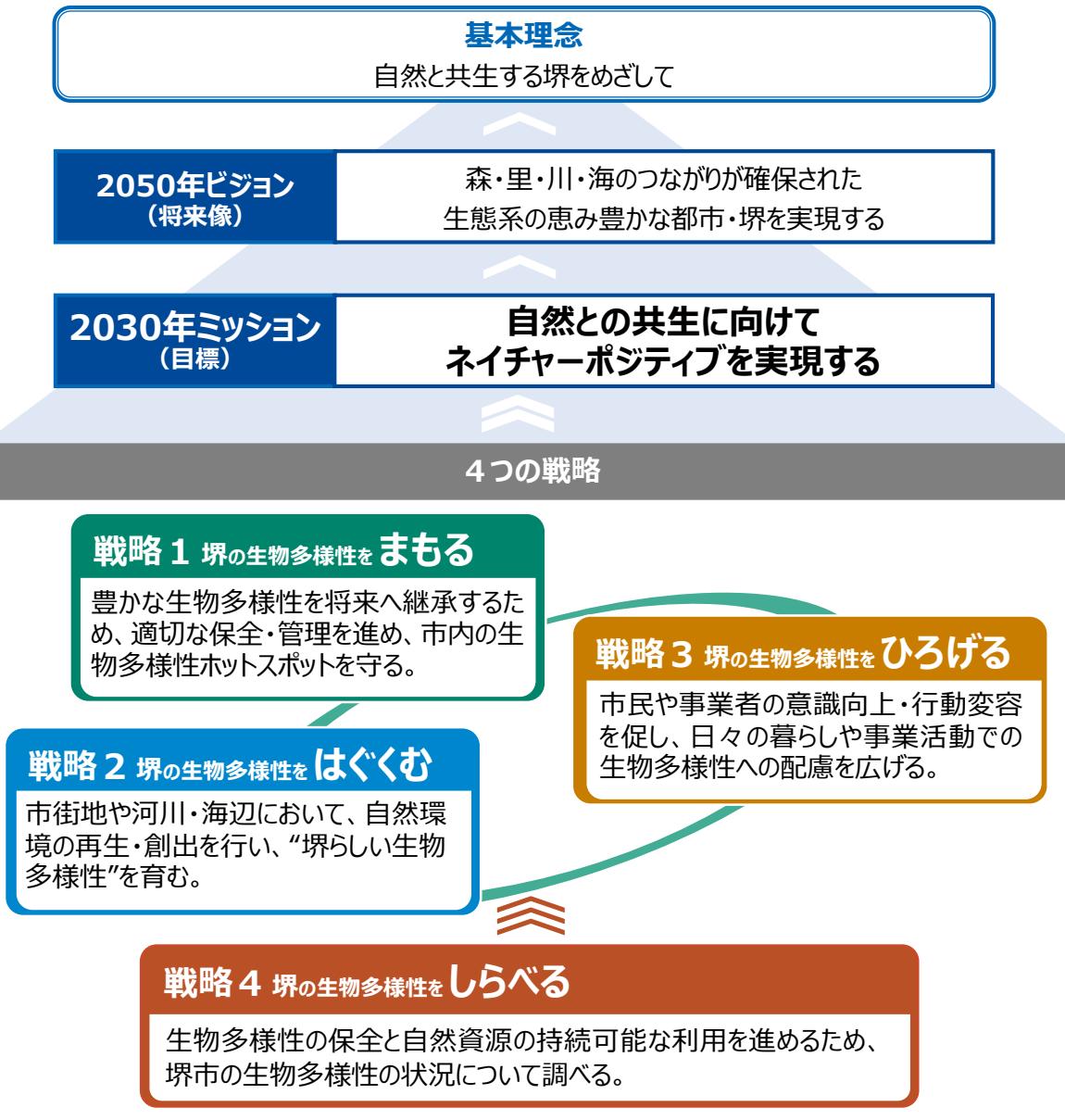
- 多様な生態系の保全とネットワーク化
- 侵略的外来種の拡大、野生鳥獣による被害発生
- 市街地における生息・生育地の減少
- 市民・事業者の行動変容が必要
- 生物多様性情報の収集と活用
- 国内外の動向を踏まえた事業の展開

2. 本プランにおいて重視する観点

- ① ネイチャーポジティブを考慮した取組の推進
- ② 堺らしい自然環境のネットワーク化の推進
- ③ 南部丘陵や農地、百舌鳥古墳群等の重要地点における生物多様性の保全の推進
- ④ 市街地での生物多様性向上の推進
- ⑤ 河川や海辺などの水辺環境再生の取組の継続
- ⑥ 侵略的外来種対策の推進
- ⑦ 野生鳥獣による被害への対策の推進
- ⑧ 生物多様性の観点での市民の行動変容の促進
- ⑨ 事業活動における生物多様性への配慮の促進
- ⑩ 生物多様性情報の更新・蓄積と保全への活用
- ⑪ 自然を活用した解決策（NbS）やグリーンインフラの視点をもった取組の推進

第4章 2030年ミッションの達成に向けた取組

1. 4つの戦略

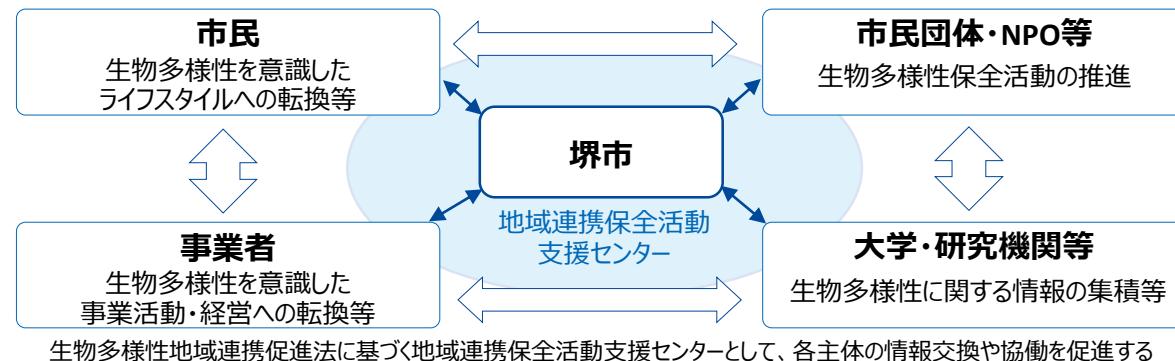


2. 2030年ミッションの達成に向けた取組の体系

戦略	施策	事業
戦略1 堺の生物多様性を まもる	1-1 南部丘陵の自然環境の保全・管理	① 南部丘陵の里地里山の保全・管理 ② 外来生物の侵入情報の収集
	1-2 農空間の継続的な保全	① 魅力的な農空間の保全 ② 農空間の多面的機能の維持・増進 ③ 有害鳥獣対策の推進
	1-3 百舌鳥古墳群及び社寺林等の保全・活用	① 世界遺産に相応しい百舌鳥古墳群の保存及び活用 ② 歴史や文化を伝える樹木等の保全
	1-4 自然共生サイトの認定推進	① 自然共生サイトの認定推進
戦略2 堺の生物多様性を はぐくむ	2-1 市街地の生物多様性の向上	① 生物多様性を向上させる堺らしい緑地の創出 ② 「緑の工場ガイドライン」を活用した緑化の促進 ③ 市街地における緑の確保及び質の向上
	2-2 河川・海辺の自然再生	① 河川の水環境の改善 ② 海辺における自然再生とふれあいの場の提供
	2-3 侵略的外来種対策の推進	① 外来種に関する普及啓発の促進 ② 侵略的外来種防除の推進 ③ 市民と連携した防除の推進
戦略3 堺の生物多様性を ひろげる	3-1 生物多様性を意識したライフスタイルへの転換	① 生物多様性に関する普及啓発の推進 ② 日々の暮らしにおける行動変容の促進
	3-2 生物多様性に配慮した事業活動の推進	① 生物多様性を意識した事業活動に関する普及啓発 ② 環境アセスメントの実施 ③ グリーン調達の推進
	3-3 生物多様性活動の連携促進	① 生物多様性に係る関係機関との連携 ② 地域連携保全活動支援センターとしての各種団体の連携促進
戦略4 堺の生物多様性を しらべる	4-1 堺いきもの情報館の運用管理・活用及び情報発信	① 堺いきもの情報館の運用管理及び活用 ② 市施設における生物多様性に関する情報発信
	4-2 生物多様性情報の収集・更新・活用	① 生物多様性関連リストの更新・活用 ② 重点的モニタリングの実施 ③ 市民と連携したモニタリング調査

第5章 プランの推進体制と指標

1. 推進体制



2. 指標

4つの戦略に対しての指標と、2030年度までに達成すべき目標値を設定する。

戦略	指標	現状値	目標値
戦略1	自然共生サイトの認定件数	-	※
戦略2	侵略的外来種の防除または外来種に関する啓発活動の実施回数	-	5回/年
戦略3	「生物多様性」という言葉を知っている人の割合（認知度）	72.4%	90%
	生物多様性に配慮した消費行動を選択している人の割合	11.0%	20%
戦略4	堺いきもの情報館のページビュー数	約1.1万件/月	2万件/月

※30by30（陸と海の30%以上の保全をめざす取組）の達成に向けた生物多様性保全に資する地域に関する国内の認定システムのことであり、現在制度の検討中であるため目標値設定は行わない